

# 令和4年度 事業報告

施設名	開明かしの木こども園			種別	幼保連携型認定こども園				
教育・保育理念	子ども一人ひとりを大切に、保護者に信頼され、地域からも愛される保育園を目指す。 (1) 子どもの最善の利益の保障 (2) 保護者に信頼される心豊かな支援 (3) 地域に根ざした子育ての充実								
教育・保育目標	子どもは豊かに伸びていく可能性を、そのうちに秘めています。その子どもが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことを目標として教育・保育を実施した。 ◎健康な子ども      ◎仲間とともに育つ子ども      ◎心の豊かな明るい子ども      ◎想像し表現する子ども								
教育・保育方針	○保育にかかわる専門職員同士が協力し、それぞれの専門性を発揮しながら、養護と教育の一体的な展開を図り、保育の内容の質を高められるよう、職員会議・給食会議・乳児・幼児会議等必要に応じて話し合った。 ○豊かな環境の中で、子ども自ら興味、関心をもってかかわったことへの充実感や達成感を味わわせ、心情、意欲、態度を養うことを目的として、「人と自然の博物館」主催の園庭プロジェクトに参加、来園にて草・虫の生態に触れた。 ○子どもの生活を視野に入れ、家庭との連携を密にし、積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを支援するとともに、保護者の共感を得て養育力の向上を支援するために、送迎時や連絡ノートの利用、個人懇談を実施した。 ○子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、望ましい未来をつくり出す力をつけ、小学校と情報交換したり、交流を密にしたりして積極的に連携していく。・・・今年度は、年長児が明城小学校の見学に出かけた。								
運営方針 (重点項目)	子ども	保育方針、全体的な計画を基に、各年齢の応じた計画を立て、子どもたちの人権に配慮し健やかな成長を願い、肯定的に受け止めること、肯定的な関わり・言葉かけができるよう、子どもたちが安心できる環境が作れるよう、園内研修で学んだことを、各自言語化し職員で共有した。「保育専門職としてふさわしくない言葉例」「全国保育士倫理綱領」目につく所に張り出しをした。							
	地域・保護者	○こども園の教育・保育への理解を深めてもらえるよう、情報の発信や日々の園生活の様子をお迎え時等を利用、今年度より全世帯対象の個人懇談を実施した。また、保護者からの相談・要望に柔軟に対応した。 ○地域の子育ての不安家庭に来園を進め、話を聴き一時預かりや入園につなげた。 ○地域の様子を知る。必要に応じて地域の「だんじり祭り」「寺町明かり」に参加。地域の婦人会との交流を実施。							
	職員	○日々の保育、業務の中の話し、子ども発達や特性へのかかわり方や保護者対応等を話合っているが、より深く考えあうことができるよう継続したい。 ○不適切な保育について施設内研修を 回実施した。専門講師に指導のもと「スタッフマニュアル」を作成した。							
はじめに	新型コロナウイルス感染症の予防・対策を継続しつつ、規制が緩和され、中止していたプール遊びや一泊保育等の園行事を再開することができ、楽しい時間を過ごすことができた。保護者からも取り組みに対して感謝の言葉をいただいた。また、コロナ禍で見直した保育内容等は、子どもたちと保育教諭と一緒に考え作り出し、展開するといった時間と心の余裕につながっていると感じる。 職員間で子どもたちの様子や教育・保育の話ができる風土ができており、理念の実現に向けてチームワーク保育を感じることができた1年であった。令和5年度は、より充実させていきたい。								
施設運営	定員		延児童数				充足率		
入所児童数		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	前年度
	4月								
	5月								
	6月								
	7月								
	8月								
	9月								
	10月								
	11月								
	12月								
	1月								
	2月								
	3月								
合計									
職員数 (22 4、01)		施設長	副施設長	主任	保育士	調理員	事務員	その他	合計
	正規								
	非正規 派遣								
職員配置数 (22 4、01)	クラス	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	フリー	合計
	園児数								
	常勤								
	非常勤								
見学者・実習生 ・ボランティア		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	保護者								

ア	学生									
	チャレンジ									
	実習生									
		12月	1月	2月	3月	合計	前年度	アルバイト■名 園見学等は感染予 防、人数制限を し、実習生は、依 頼があれば随時受 け入れます。		
	保護者									
	学生									
	チャレンジ									
実習生										
年間行事	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
	2月									
	3月									
	毎月									
	その他									
特別保育事業		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
	述べ人数 延長保育									
	一時預かり									
	障害児保育									
		12月	1月	2月	3月	合計	前年度			
	述べ人数 延長保育									
	一時預かり									
障害児保育										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育事業（継続事業）・乳児保育事業（継続事業）</li> <li>・すくすく子育て事業（継続事業）</li> <li>・機能強化推進事業・地域子育て支援（アドバイザー）</li> </ul>									
乳児保育	今年度は■名のスタートでした。									
機能強化推進	各クラス非常用持ち出し物の点検と持ち出し方法の検討。備蓄品の入れ替えをした。									
特色ある保育 (園での取組 み予定)	専門講師によるベビーマッサージをかしの木こども園と合同で■回実施した。									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門講師による指導→体育（年■回） 絵画（年■回） 英語（年■回）</li> <li>○成長の歩み（■歳児）</li> <li>○お花見（■歳児のみ コスモス畑）</li> <li>○野菜作り（トマト、キュウリ、ピーマン、さつまいも）</li> <li>○クッキング</li> <li>○園外保育（散歩・公園遊びの充実）</li> <li>○姉妹園との交流</li> </ul>									



第3者評価等	評価基準の見直しで兵庫県の基準が示されてからの受診が良いとのことで令和4年度は実施せず。令和5年度実施予定。								
人材確保	採用2、3年目の若い職員を中心とした就職委員会メンバーで求人对応をした。■回の就職支援会議を実施し、処遇や園の特徴、アピール内容を話あい学んだ。就職フェアに積極的に参加し。園見学の学生も増え、新卒者■名が入職につながった。								
有休消化数	有休日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
		12月	1月	2月	3月	合計	前年度		
職員の資質の向上と研修	<p>○年間研修計画に基づき、研修に参加し職員のキャリアアップを目指した。</p> <p>○こども保育環境研究所の斎木里奈先生による、管理職研修、より良い保育のための園内研修を実施し学びを深めた。</p> <p>○研修で学んだことを、言語化して職員間で確認をした。</p> <p>○外部研修に積極的に参加した。</p>								
会議									
その他	<p>○兵庫県立尼崎高等学校の絆クラスと学生の体験保育の受入れた。(年長クラス)</p> <p>○尼崎市双星高校出張インターシップ(■年生向け)に参加した。(就職支援員メンバー)</p> <p>○令和5年度より、倫理委員会を設置し、より風通しの良い、適切な保育を目指す。</p>								